

公開実用 昭和62-48849

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

昭62-48849

⑫ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)3月26日

B 60 Q 1/30

Z-8410-3K

F 21 V 1/34

B-8410-3K

G 02 B 8/00

8212-3K

P-7370-211

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 車両用リフレクタ装置

⑮ 実 願 昭60-141148

⑯ 出 願 昭60(1985)9月14日

⑰ 考 案 者	田 中 義 耿	和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
⑱ 考 案 者	大 沼 修 次 郎	和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
⑲ 出 願 人	本田技研工業株式会社	東京都港区南青山2丁目1番1号
⑳ 代 理 人	弁理士 北村 欣一	外2名

明 細 書

1. 考案の名称

車両用リフレクタ装置

2. 実用新案登録請求の範囲

車両に備えるリフレクタの裏面にテールライトその他の車両用ライトからの光線を導く導光板を接合したことを特徴とする車両用リフレクタ装置。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、主として自動二輪車に適用される車両用リフレクタ装置に関する。

(従来 of 技術)

従来、自動二輪車の車体後部にリフレクタを設け、他車からの光が当たったとき、リフレクタがその光線を反射して輝くようにしたものは知られる。

(考案が解決しようとする問題点)

リフレクタは、他車からの光が当たらない限り発光しないが、車体スペースの有効利用を図る

上ではリフレクタを他の機能部品としても兼用し得るようにすることが望まれる。

本考案は、かかる要望に鑑み、リフレクタを夜間走行時等に他車からの光によらずに発光させて、テールライト等の補助機能部品として兼用し得るようにした装置を提供することをその目的とする。

（問題点を解決するための手段）

本考案では、上記目的を達成すべく、リフレクタの裏面にテールライトその他の車両用ライトからの光線を導く導光板を接合した。

（作用）

導光板に、夜間走行時に点灯するテールライトからの光線を導くようにすれば、テールライトと共にリフレクタが発光し、テールライトの表示機能をリフレクタが補助することになり、テールライトの小型化を図る上で設計の自由度が増す。

又、ウインカからの光線を導光板に導くようにすれば、リフレクタをウインカの補助的な表

示部位として活用することができる。

(実施例)

第1図を参照して、(1)は自動二輪車の車体後部のリヤカウル、(2)はその下側のリヤフェンダを示し、該リヤカウル(1)の後端にテールライト(3)を嵌込式に設けると共に、該リヤカウル(1)の後部両側面にリフレクタ(4)を設けるものとした。

該テールライト(3)は、第2図乃至第4図に示すように、車体の後方に開口する反射鏡兼用のケース(5)に左右1対のバルブ(6)(6)を装着し、該ケース(5)に後方からレンズ(7)を施蓋して成るもので、該レンズ(7)の下部両側に前方にのびる舌片状の延長部を一体成形し、この延長部でリフレクタ(4)を構成するようにした。

そして、該リフレクタ(4)の裏面に導光板(8)を接合し、該導光板(8)を該レンズ(7)の裏面に沿ってバルブ(6)に対向する位置まで延長すると共に、その延長端をバルブ(6)側に向って屈曲させ、この屈曲部(8a)で捕捉した光線を該導光板(8)を介して該リフレクタ(4)に導くようにした。

尚、該リフレクタ(4)は、その裏面に外部光線を反射する角錐状の突起群(4a)を有するもので、該導光板(8)を該リフレクタ(4)の裏面周縁の縁枠部(4b)に該突起群(4a)に接するように嵌合させて該縁枠部(4b)に超音波溶着等で固着するものとした。

図面で(7a)はレンズ(7)の底板部に形成したライセンスプレート(9)用の照明窓、(5a)はケース(5)に一体に形成したリフレクタ(4)の受部を示す。

以上の構成によれば、テールライト(3)の点灯時、導光板(8)を介して導かれる光線により、バルブ(6)に対しケース(5)の影となる位置に存するリフレクタ(4)の部分を含めてリフレクタ(4)がその全面に亘って発光し、テールライト(3)の発光面積が広くなる。

尚、上記実施例ではバルブ(6)からの光線を導光板(8)で直接捕捉するようにしたが、これに限るものではなく、例えば第5図に示すように、バルブ(6)からの光線を光ファイバ10を介して導光板(8)に導くようにしても良い。尚、このもの

では、光ファイバ10の受光端をケース(5)の反射鏡部分にその裏面側から挿入して、バルブ(6)からの光線を捕捉せしめるようにし、又光ファイバ10の振れを防止すべく、これをケース(5)の反射鏡部分とリフレクタ(4)の受部(5a)とに夫々接着剤で固定するようにした。

又、上記両実施例では、リフレクタ(4)をテールライト(3)と一体的に構成したが、テールライト(3)から離間した位置にリフレクタ(4)を設ける場合にも、その裏面に接合する導光板に光ファイバを介してテールライト(3)の光線を導くことで同様に本考案を適用でき、更にウインカ等のテールライト以外の他の車両用ライトからの光線を導光板に導いてリフレクタ(4)を発光させることも可能である。

(考案の効果)

以上の如く本考案によるときは、リフレクタを他車からの光で発光させるだけでなく、テールライトその他の車両用ライトの点灯時にも発光させることができ、車両用ライトの点灯を表

示する補助機能部品としてリフレクタを活用でき、車体スペースの有効利用を図る上で有利である効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本案装置を具備する自動二輪車の後部の斜視図、第2図はその要部の正面図、第3図はその側面図、第4図は第2図のIV-IV線截断平面図、第5図は他の実施例の第4図に対応する截断平面図である。

(3) … テールライト (車両用ライト)

(4) … リフレクタ

(8) … 導光板

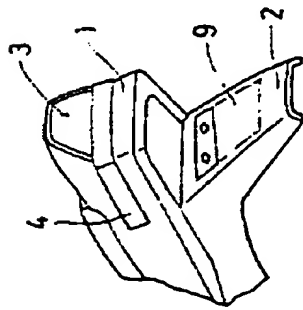
実用新案登録出願人 木田技研工業株式会社

代 理 人 北 村 欣 一

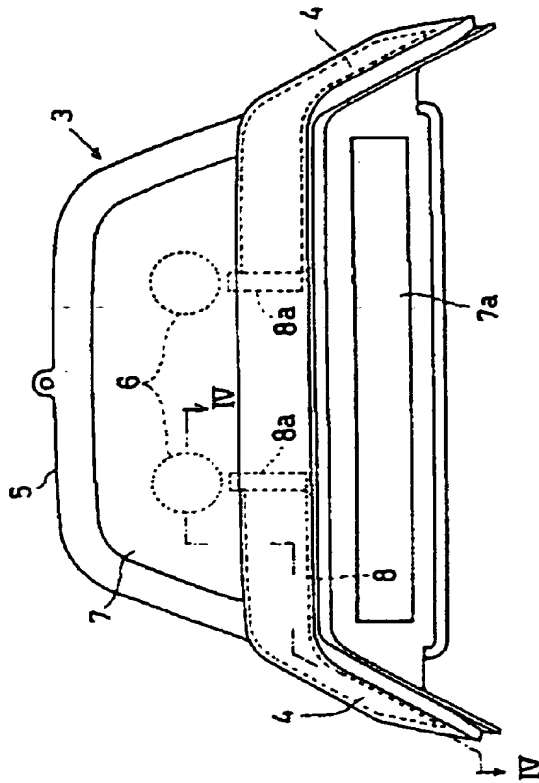
他 2 名



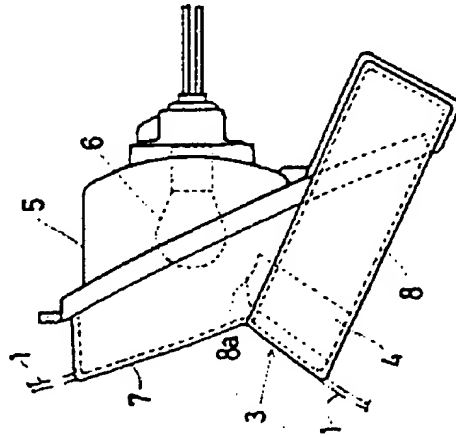
第 1 図



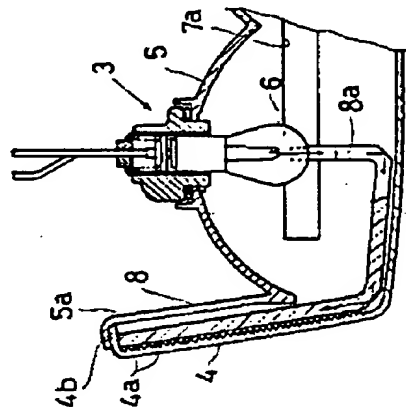
第 2 図



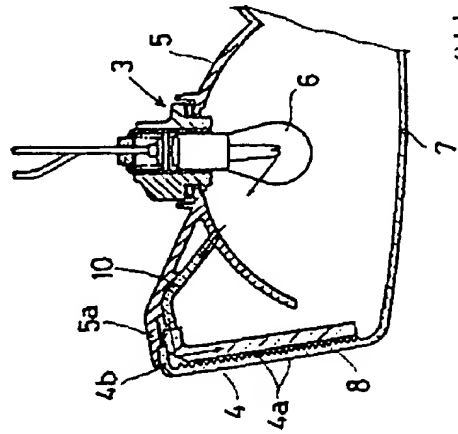
第 3 図



第 4 図



第 5 図



611

代理人 北 村 欣 一

実用特許第8849